

# 「今」そして「これから」 を常に見据えて

ダイヤ精機(株) 代表取締役社長

諏訪 貴子 Takako Suwa



1971年5月10日生まれ  
1995年 成蹊大学工学部卒業  
同年 (株)ユニシアジェックス  
入社  
1998年 ダイヤ精機(株)入社  
2000年 ダイヤ精機(株)退社  
2004年 ダイヤ精機(株)代表  
取締役就任

〒146-0083 東京都大田区千鳥 2-40-15  
TEL (03) 3758-3351  
創立：1964年8月  
資本金：1億8,700万円  
従業員：34名

6重苦とも8重苦とも言われる厳しい状況下で、われわれ中小企業は生き残るために、いや勝ち残るためには何をすべきか。これを本気で考えなければならないときがきたと思っている。そして必ず私たちは手段を見つけだしさらなる成長を遂げると信じている。

とはいえ、中小企業を取り巻く事業環境変化は近年想像以上に激しいものであり、今後の予測など不可能な状態となっている。当社の出荷製品および出荷先においても変化が激しい。産業構造の変化が急激に加速していると実感する。2011年の東日本大震災や超円高などの影響も大きいですが、それ以前の100年に一度と言われたリーマン・ショックが事の発端であると考えられる。では当社がどのようにしてリーマン・ショックを乗り越えることができたのか、そして現状をどのように踏まえ、戦略を立てているのかを、私の視点ではあるが紹介したい。

## 3年改革にまず取り組む

当社は、自動車関連の向けの冷温熱金型部品、およびゲージ、治工具などの精密金属加工を得意とするメーカーとして1964年(昭和39年)、先代の亡父が大田区の地で創業した(図1)。創業当時は職人を軸とした製作工場であったが、主要客先のニーズに応えるべく、設計から製造、検査、出荷までを行える一貫加工メーカーとして革新を進めてきた。現在の社員は34名、その平均年齢は35歳である。

私が2代目社長に就任したのは2004年の4月だった。経営的には厳しい状況下ながら、就任直後に国の金融政策が功をなし、後にプチバブルと呼ばれるような景気回復の波がやってきた。社内には仕事が溢れ、改善活動をすればすぐに効果が結果として現れるよう

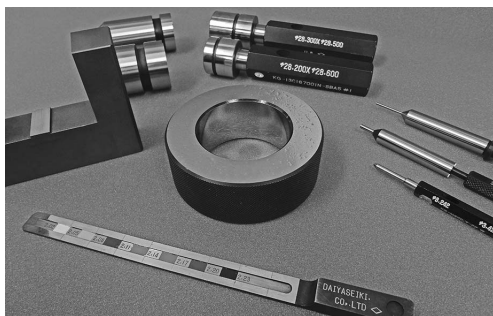


図1 各種製品